



### 海岸でのゴミ世界トップ10

-2005年国際海岸クリーンアップの結果から-

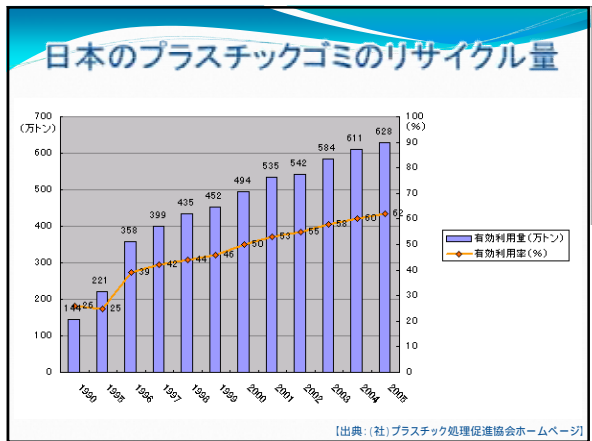
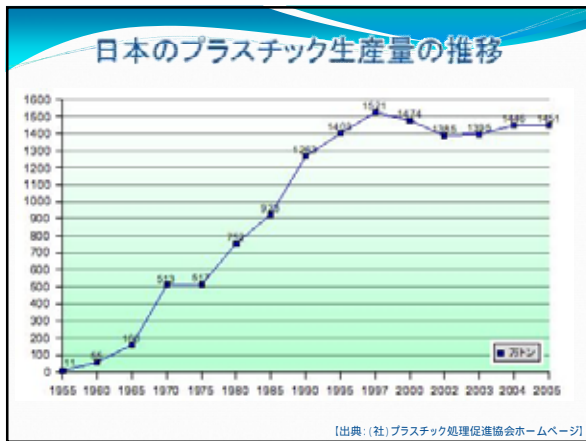
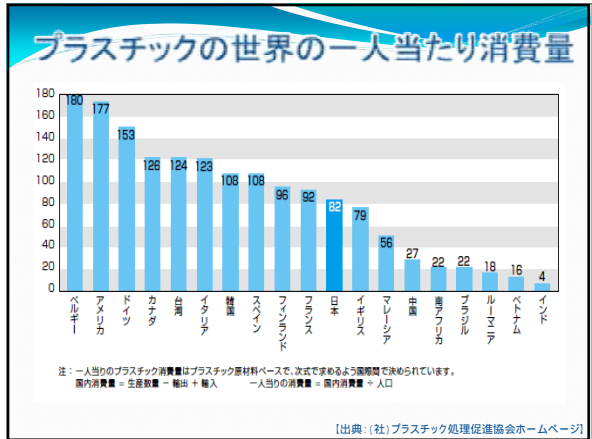
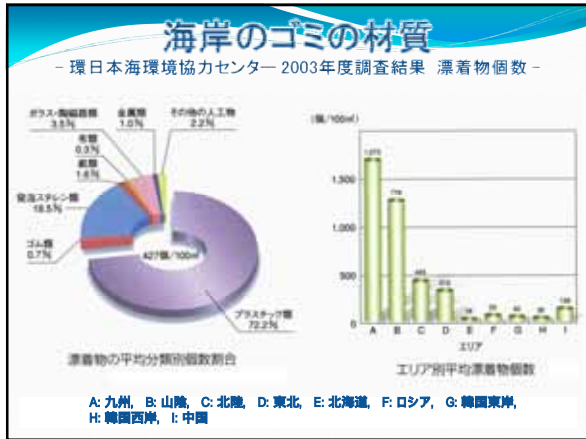
順位	品目	個数	%
1	タバコのすいがら・フィルター	1,629,769	26.4
2	キャップ・ふた	637,693	10.3
3	食品の包装・容器	621,981	10.1
4	飲料プラスチックボトル(20以下)	486,183	7.9
5	袋類	353,554	5.7
6	食器	315,084	5.1
7	飲料ガラスボトル	294,850	4.8
8	飲料缶	244,724	4.0
9	ストロー・マドラー	238,539	4.1
10	衣類	110,544	1.8
	合計	4,932,921	79.8



### ゴミが自然にもどるまでの時間

品物	年数	品物	年数
ガラスビン	100万年	革製品	50年
釣り糸	600年	プラスチックの袋	10~20年
プラスチックボトル	450年	タバコのフィルター	1~5年
アルミ缶	80~200年	くつ下(毛織)	1~5年
発泡スチロールのブイ	80年	牛乳パック	3ヶ月
ゴムのくつ底	50~80年	りんごの芯	2ヶ月
ブリキ缶	50~80年	新聞紙	6週間
スチロールのカップ	50年	オレンジやバナナの皮	2~5週間

[出典 The Ocean Conservancy]



### ハリセンボンの漂着

石川のニュース

◎ハリセンボン大量漂着 輪島・門前の海岸

輪島市門前町の海岸で一日までに、数センチから数センチに生息するフグの一種、ハリセンボンが大量に打ち上げられているのが見つかった。数は千匹以上とみられ、近くに住む男性(80)は「これほどたくさん見るのは初めてと驚いている」。

地方にすむハリセンボンは真冬ごろから、一部が村奥奥まで上るが、七尾市ののりま臨海公園水泳館は「固まって大量に打ち上げられるのは珍しい」としている。

同水泳館によると、今年は海水温がやや高めで推移しているため、ハリセンボンが生き残って凍り付いたところ、三十一日から寒波によるしびれと海水温低下で一気に凍結した可能性があるという。

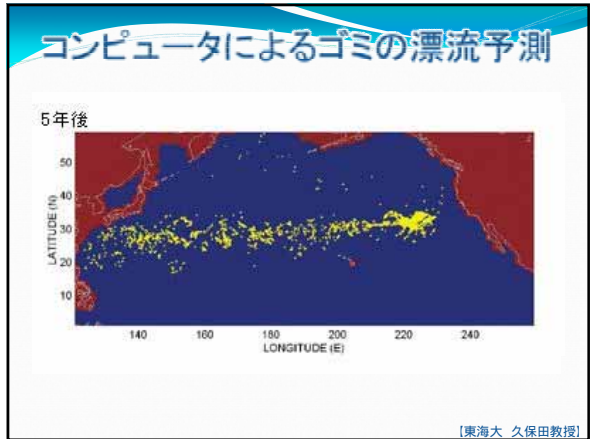
輪月川の河口付近には、漂着ゴミに交じって体長二〇センチほどの死骸しぐりが数匹に並び、においに誘われたのか、ネコが走り回る姿も。住民は「一匹なら愛護(あいご)もあるけれど、多すぎて気持ち悪い。今年の冬は異常や」とおぼろげに話した。

【出典 北国新聞】

【出典 東海大学「海のはくぶつかん」2004年11月号】

【出典 「旅のスクラップ帳」】

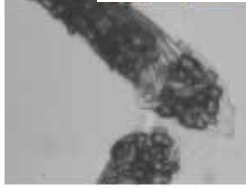







【東京海洋大 兼広教授】

### 動物プランクトン中のポリエチレン粒子 Polyethylene in Zooplankton


Plastic Particles in gut

Plastic in Fecal Pellet

1. Average particle size = 20 microns
2. Fresh zooplankton samples tested in a container

RTI (Dr. Anthony L. Andrady, APEC Marine Debris Seminar in Hawaii, 2004)

### 医療廃棄物の漂着状況調査結果 (海上保安庁 平成17年9月22日現在)



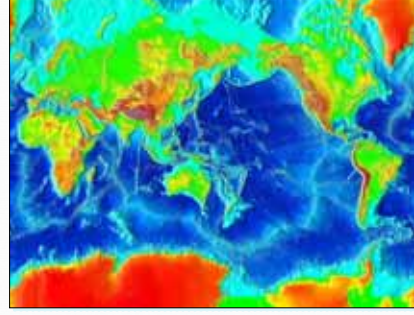
漂着地点	漂着物
秋田県	44個
山形県	270個
福島県	147個
宮城県	1,120個
岩手県	1,327個
青森県	700個
高知県	1,544個
鹿児島県	15,100個
沖縄県	9,200個
山口県	80個
福岡県	27個
佐賀県	604個と70個
熊本県	300個
鹿児島県	200個
合計	21,950個と70個

### 漂着した血液入りの注射器



【出典: 新琴引浜通信ホームページ】

### 海の大きさ



**地球の表面積:**  
5億1千万km<sup>2</sup>

**海全体:**  
3億6千万km<sup>2</sup>  
(70.6%)

**日本海(東海):**  
98万km<sup>2</sup>  
(0.2%)

(出典 NGDC)

### 北西太平洋海域の人口 約5億8千万人 ⇨ 世界の人口の10%

**中国:** 3億7973万人(2000)

- 黒龍江省: 3689万人
- 吉林省: 2728万人
- 遼寧省: 4238万人
- 河北省: 6744万人
- 北京市: 1382万人
- 天津市: 1001万人
- 山東省: 9079万人
- 江蘇省: 7438万人
- 上海市: 1674万人

**ロシア連邦:** 406万人(2002)

- 沿海地方: 207万人
- ハバロフスク地方: 144万人
- サハリン地方: 35万人

北朝鮮: 2314万人(2001)

大韓民国: 4814万人(2000)

日本: 1億2777万人(2005)

### 海と私たちの生活

物を運ぶ



楽しむ



地球上の生物

陸上: 100万種類  
海洋: 1,000万種類以上  
(全生物重量の90%)



食べ物



エネルギー・資源



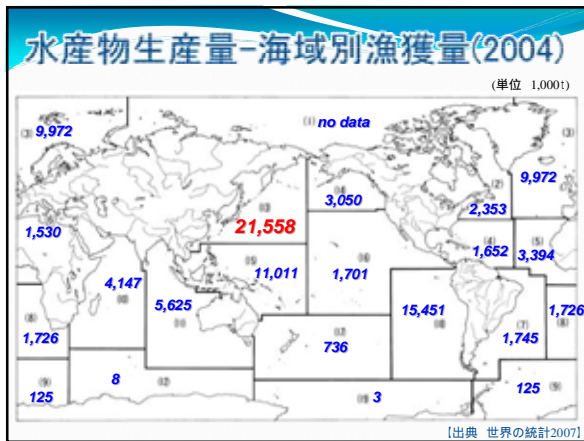


### 一人当たりの供給食料(2003年)

(単位 kg)

国名	穀類	米	小麦	砂糖類	いも類	豆類	野菜類	果実類	肉類	卵類	魚介類
日本	115.2	57.0	44.2	28.6	32.4	2.0	104.6	54.8	46.3	19.1	68.1
韓国	145.1	77.7	48.4	37.0	13.5	1.5	211.4	63.7	54.7	10.4	67.3
中国	158.0	78.5	61.4	8.2	74.5	1.2	270.5	49.7	58.1	18.3	32.1
ロシア	151.1	5.2	132.0	44.8	125.6	1.6	96.4	48.4	56.7	13.8	18.7

[出典 世界の統計2007]



### 国連環境計画

United Nations Environment Programme (UNEP)

**背景** 1972年6月の国連人間環境会議(ストックホルム)で採択された「人間環境宣言」及び「国連国際行動計画」を実施に移すための機関として、同年の第27回国連総会で設立された。

**目的** 国際連合のもとで、環境問題に関する諸活動の全般的な調整を行なうとともに、新たな問題に対しての国際的な取組を推進すること

**事務局本部** ケニヤ, ナイロビ

**事務局長** アッヘム・シュタイナー(2006年6月着任)

**職員数** 国際職員: 約502人(日本人職員: 17人 2005年12月現在)

### 地域海計画 (Regional-Sea Programme)

#### 地域行動計画 (Regional Action Plan)

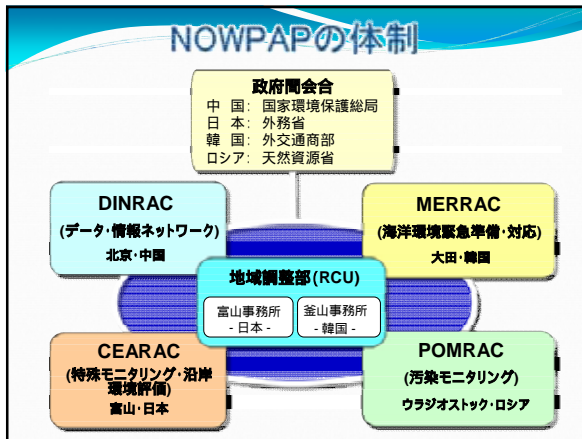
**地域海計画**

1974年に閉鎖性水域の海洋汚染の管理と海洋及び沿岸域の資源の管理を目的として提唱されたもの。  
現在、世界18の地域海において策定された行動計画に基づき様々な活動が推進されている。

### 北西太平洋地域海行動計画の設立

#### Northwest Pacific Action Plan

- 1990年、第15回UNEP管理理事会において、北西太平洋域を含む未策定海域での地域海行動計画設立を検討するべきことが決議された。
- 1991年よりUNEP主催の専門家会合が開催され、**中国、日本、韓国、旧ソ連、北朝鮮**の5カ国により地域行動計画の設立について協議
- 1994年9月、韓国ソウルで開催された第1回政府間会合において、**中国、日本、ロシア、韓国**の4カ国(北朝鮮は欠席)



### 特殊モニタリング・沿岸環境評価 地域活動センター (CEARAC)

**英語名称:** The Special Monitoring & Coastal Environmental Assessment Regional Activity Centre (CEARAC)

**設置場所:** (財)環日本海環境協力センター (富山)

**活動内容:**

- 従来のモニタリング以外のリモートセンシング等を活用した特殊モニタリングの開発
- 沿岸環境評価、当面は赤潮/HAB



### データ・情報ネットワーク 地域活動センター (DINRAC)

**英語名称:** The Data & Information Network Regional Activity Centre

**設置場所:** 中国国家環境保護総局 環境経済政策研究センター (北京)

**活動内容:**

- NOWPAP地域全体のデータ・情報システムを確立
- 総合的なデータベース作成
- NOWPAP地域内の海洋・沿岸環境に関するデータ・情報の交換について協力を推進、調整



### 海洋環境緊急準備・対応 地域活動センター (MERRAC)

**英語名称:** The Marine Environmental Emergency Preparedness and Response Regional Activity Centre

**設置場所:** 韓国海洋研究開発院(KORDI)/海洋システム安全研究所(テジョン)

**活動内容:**

海洋汚染の緊急準備・対応について、地域が効果的に協力できるよう、NOWPAP油流出地域緊急時計画などを担当




### 汚染モニタリング 地域活動センター (POMRAC)

**英語名称:** The Pollution Monitoring Regional Activity Centre

**設置場所:** ロシア科学アカデミー極東支部 太平洋地理学研究所 内 (ウラジオストック)

**活動内容:**

- NOWPAP地域内の海洋・沿岸環境モニタリングに関する活動の調整
- 大気から降下する汚染物質のモニタリング(ワーキンググループ1)及び、河川または直接流入する汚染物質のモニタリング(ワーキンググループ2)
- 沿岸域総合管理の推進
- 海洋環境白書の編集



### NOWPAPにおける海洋ゴミの取り組み

2005年11月、日本の富山市で開催された第10回NOWPAP政府間会合で、海洋ゴミに関する取組の実施計画であるMALITAを採択。

- 1) 各国代表者の指名等実施体制の確立及び実施計画の策定
- 2) 情報及び理解の共有を目的としたワークショップの開催
- 3) 海洋ゴミに関する既存情報及びデータの収集
- 4) MALITAに関する情報ホームページの開設
- 5) 海洋ゴミに関する情報データベースの構築
- 6) 各国の法制度に関する調査・検討
- 7) 国家レベル・地域レベルの総合管理戦略の検討
- 8) 普及啓発活動の推進
- 9) 行政、NGO、研究者、市民社会等とのパートナーシップ構築
- 10) モニタリングプログラム構築
- 11) 各分野毎のガイドライン作成 (海運、漁業、観光等)
- 12) 地域アクションプランの策定



## MALITAの成果

- ホームページの開設  
( [http://dinrac.nowpap.org/MALITA\\_Whatis.htm](http://dinrac.nowpap.org/MALITA_Whatis.htm) )
- パンフレットの作成
- 海岸におけるモニタリングガイドラインの作成
- ワークショップ・作業部会の開催
  - 1st NOWPAP Workshop on Marine Litter , Incheon, Korea, 8-9 June 2006
  - 1st MALITA Working meting, Incheon, Korea, 10 June 2006
  - International Coastal Cleanup & Workshop in Yamagata 2006, Sakata, Yamagata, 29-20 September 2006
  - 2nd NOWPAP MALITA Workshop , Toyama, Japan, 28-29 March 2007
  - 2nd MALITA Working meeting, Toyama, Japan, 30 March 2007
  - NOWPAP Marine Litter Prevention and Control Workshop and International Coastal Cleanup, Rizhao, China 27-28 June 2007



## 第1回 NOWPAP 国際海岸クリーンアップの開催


2006年9月29-30日, 山形県酒田市

- 各国の政府関係者、研究者、市民団体等からワークショップに200名、海岸でのICC活動に100名が参加)




## 第1回 NOWPAP 国際海岸クリーンアップの成果

- 各国が活動を積極的に推進していくことを表明  
中国では以後、2006年中5回開催



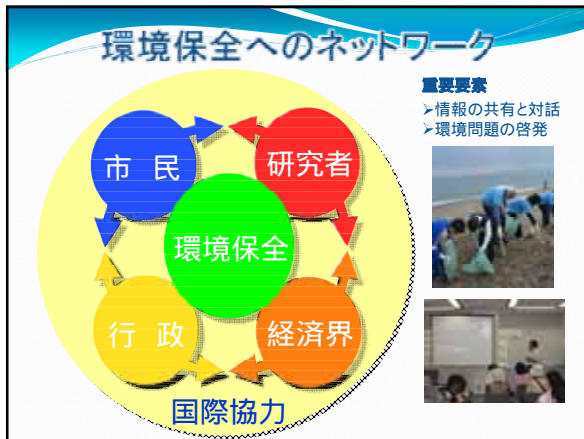
## NOWPAP 海洋ゴミの抑制と管理にワークショップ及び国際海岸クリーンアップ

2007年6月27-28日中国日照市

6月27日:ワークショップ及びポスターセッション開催  
6月28日:海岸にてICC活動実施。約200名参加  
NOWPAP加盟国のほか、YSLME, COBSEA, PEMSEA等地域の国際プロジェクト代表者も参加





### 海のごみをなくすためには

《市民レベル》

海岸のそうじ

自然にやさしい生活

- ### わたしたちにできること
- ゴミが出さないような生活を行いましょう。
  - ゴミは持って帰りましょう。
  - ポイ捨ては止めましょう。
  - ゴミの分別・リサイクルを行いましょう。
  - ゴミにならないものを買うよう心がけましょう。
  - 清掃活動に参加しましょう。
  - 自然にやさしい生活を心がけましょう。

